

学びの実感・結

3年2組 織内学級「あまりのあるわり算」

◇授業づくりの指導案検討会までの間に、学年部ですでに3回の話し合いがなされたそうです。学年部の協力体制に感謝です。土生先生の授業でした。織内先生も十分に安心していたのではないかと思います。

◎1回目の学年部の事前検討会にて（ポイントは3点）

- ①授業の切り方（教科書では、ほぼ2時間扱いの内容を1時間で扱うことについて）
教科書は振り返りが長いので、割り算では、「割る数」の段を使うということを出されるということに焦点を当てる。また、割り算には、「1あたり量」と「いくつ分」を求めることだったねということを確認する。
振り返りを短くする根拠として、児童のレディネスと定着度という点で十分だと判断した。また、あまりのある割り算の解き方に時間をかけた方が児童の実態に合っていると判断した。
- ②導入について
児童が興味のあるものとして、あめ玉を使って提示する。ただ提示するのではなく、「全体量」を提示しないで、授業の雰囲気をとっつきやすいものにしたい。
- ③現時点での悩み（意見の交流について）
ペアかグループか全体かで悩んでいる。大切なことはただ交流させるのではなく、教師側が交流の意図を持つことが大切である。4月から全体で交流しているから、授業で実施してみたいが時間の関係で難しいかもしれない。グループだと話さない子もいるから、ペアで実施してみたい。
自分の考えを持ってから交流させたい。現段階では、発表した後の意見の広げ方も迷っている。実物投影機の活用も考えられる。

◎2回目の事前検討会にて

- ・導入は、児童の実態からわり算が十分身につけていることから、短く終わらせる。
- ・言葉のキーワードを作っておき、児童の視覚に訴えるようにする。
- ・研究の3年目ということもあり、ペア学習で考えを深めさせる。ペア学習の際には、自分の考えを持たせてから意見を交流させる。
- ・時間短縮のために、実物投影機で児童のプリントを映す。その際教師側が、事前に児童の考えを予測して準備しておいたものを黒板に貼りながら振り返る。
- ・あめでいいのだろうか。児童に提示しやすいことや興味・関心を高めるためにあめを活用していきたい。
- ・最後に適用問題までいくような内容ではないので、振り返りということだけでいけばいいのではないか。
- ・児童の考えを広めるときにパワーポイントの活用も考えられる。

◎授業づくり訪問の指導案検討会にて

活発なご意見を頂きありがとうございました。検討会の後、中学年部ではすぐに指導案の練り直しが始まりました。取り組みの速さと瑞季先生をフォローしようという体制ができあがっていました。

◎授業づくり訪問の事後検討会にて

《自評》

①アナウンス

前回、あえてやらなかった→パワーポイントで子供たちに落ちたアナウンスをした方が良かったか？ このままで良いか？

- ②パワーポイントの既習事項の振り返りはどうだったか？
- ③適応問題…あまりが少ない方が良くと思ってやってみた。
- ④その他…実態がなかなか把握しづらかった。個に応じた指導ができたか。

《A・Bチームより》…一部抜粋

- ・実物を使った問題提示，全部で何個あるか分からないこと，あめの数え方…わくわくどきどき，やりたいなと思う学習課題の提示
- ・既習事項の振り返り…パワーポイントが視覚教材を用いたテンポが良くなっていた。
- ・(クラスの実態から)アナウンスはもっと多めでも良かったのでは。
- ・みんなで深めていく場面で，不完全な解答を取り上げて，子供たちにどうしたらよいか問いかける形にしてはどうか。…ゆさぶり
- ・実物投影機でノートを取り上げるのは，時間短縮にも子供たちの理解にも役立っていた。
- ・もっと子供たちの考えを発表させても良かった。

《奥田指導主事より》…一部抜粋

- ①児童の姿から
 - ・チームで動いていると感じた。
 - ・条件不足の問題提示に対する子供の反応→問いを持つと言うことが大事にされている，よかった。
 - ・手を挙げていなかった児童も挙げた
 - ・自力解決の表現力・アイデアも良かった→多様な考え→先生がどう取り上げていくか
- ②検討会から
 - ・課題提示の仕方が良かった。夏の研修会の資料参照のこと。
 - ・アナウンス…内容を明確にしているところがよい。バリエーションもいろいろあってよい
 - ・ICT活用が良かった。これからも常に学んでいかななくてはいけない。
 - ・子供がつまづいたものについて，スタートをそろえれば良かったのでは，という意見について…スキルや家庭学習，プロログでいかに押さえさせるか。
 - ・学び合いを深める事について…あまりの存在・3の段を使うことをしっかり意識させる。「答えは何人に分けられるのか」を意識させることで，答えは導き出せる。→不完全解答を取り上げて，深めさせる→その後新しいことは教える。
 - ・適用問題には，「なぜ6の段を使うのか」を図なり式なりで表現できれば理解できている
 - ※低学年は「やって学ぶ」高学年は「やって学ぶ，式で学ぶ，言語で学ぶ」
 - ・数学の世界で，式に単位はつけない。しかし，意味理解の際にはつけてもよい。最終的には付けなくて理解させる。あとは先生方の共通理解。
- ③校内研究から
 - ・主題が児童の実態に合っている→継続することで児童の実力がついていく。
 - ・一人一人が=全員の子供が
 - ・主体的学びとは自分の考えや判断で行動し，学ぶことができる。6年生の姿なので，そこに向けてのそれぞれの学年での姿が考えられるはず。
- ④その他
 - ・成果の共有と課題のリレー
 - ・教師の出番を減らす方向で，授業を進めてみては？
 - ・発展問題や活用問題への挑戦→それだけで子供の興味を引き寄せる。

◎お知らせ…

今回奥田先生より「指導案の基本的な書き方」と「算数・数学の研修会の案内」をいただきました。配布と回覧をしますので，参考にしたり，参加への検討をしたりしてください。

次回の研究授業は…

10月下旬 4年 「面積のはかり方と表し方」です。

★事前検討会，事後検討会は，決まり次第連絡します。